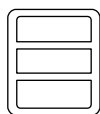


かねざわ 第46号

平成25(2013)年8月

- ・ 探訪の日程が変わりました (P2)
- ・ 資料等の取扱いが変わります (P4)



次

運営委員会からのお知らせ

- 2 探訪(第6回学習会)のお知らせ
 - 3 15周年記念事業『新版かねざわの歴史事典』重版発行の進捗状況
 - 3 11月9日第7回学習会テーマ決定
 - 4 学習会欠席時の資料等の取扱い
- ### 学習会
- 5 学習会の概要とアンケート結果

分科会からの便り

- 10 「懐かしの映画」鑑賞録 No. 11 佐藤 晃
- 14 「浮雲俳句会」抄録 No. 22 北野 清市
- 18 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO. 2
小俣 悦男

歴史研究

- 20 『吾妻鏡』を読む(9) 小倉 英明

行事予定

- 22 2013年9月～11月の予定



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

探訪(第6回学習会)のお知らせ 追浜・夏島地区を巡る 実施日：10/25(金)

今年の探訪は、明治憲法記念碑などの先人の足跡を偲ぶ場所と、未来への可能性を秘めている海洋研究開発の先端現場を巡る企画としました。街歩きと講演・見学の内容になっています。街歩きのガイドは“わ”の会の探訪実行委員会が行います。平坦路で歩行距離は約6Km(10000歩)です。終了後の懇親会も予定していますので、是非ご参加ください。

今回は、途中の移動距離の長い部分にバスを利用しますが、路線バスでは一般市民に迷惑をかけること、本数が少なく、行程への制

約が大きいこと、また会員各自の費用負担増は極めて小額ですむため、貸切バス(臨時便)利用とします。

探訪参加の申込書を8月学習会で配布し、8月および9月の学習会で申込受付をいたしますが、間に合わなかった方は10月11日までに運営委員に連絡下さい。

なお、5月に配布しました年間予定表から実施日が変更になっていますので、ご注意ください。

実施要領

1. 探訪先 追浜、夏島地区の寺社・旧跡および海洋研究開発機構
2. 実施日時 10月25日(金) 10時~15時 小雨決行
荒天等で中止の場合は、当日朝7時までに、参加予定各位に電話連絡
また、“わ”の会ホームページに掲載します
3. 集合時間 午前 9時45分
4. 集合場所 京急追浜駅改札前2F広場
5. 持ち物 名札、昼食、飲み物
6. 探訪経路 追浜駅→六地藏傍示堂→雷神社→良心寺→追浜駅→(貸切バス)→追浜車庫前→海軍航空発祥の地記念碑→烏帽子巖の碑→明治憲法起草地記念碑→夏島貝塚→海洋研究開発機構(昼食・講演/談話*・見学)→(貸切バス)→追浜駅(解散)
*講演：「深海の世界」 小椋徹也氏(元しんかい6500パイロット)
談話：「追浜と海軍」 熊谷 哲氏(“わ”の会会員)
7. 費用 500円(貸切バス代 当日の受付時に集めます)
8. 懇親会 場所：いち楽(追浜駅1分) 会費：3000円(当日の昼食時に集めます)
9. 申込期限 10月11日(金)

15周年記念事業 『新版かねざわの歴史事典』重版発行 の進捗状況

“わ”の会15周年記念事業の一つとして進めています『新版かねざわの歴史事典』(以下「事典」と略)の重版発行作業の途中経過をご報告します。

これまで、3回の「事典」重版編集委員会の会議を持ちました。1月26日、4月13日と7月27日です。出席された委員は各回15名～20名で、第2回会議で方針的な取り決めがなされました。それを5月の総会や会報で説明して、『「事典」重版のためのチェックシート』をお配りしました。

チェックシートの提出を7月13日の第3回学習会で締切りましたが、提出者は10名でした。ただ、1000項目余にわたってチェックされた会員もおられ、項目でいえば1500項目を超える状況でした。

7月27日の第3回会議において、討議項

目を1500項目の中から、今週秋に出版予定の「重版」用(誤認、誤字、脱字の訂正)と、20周年に向けての「改訂」用(内容、項目、文章、体裁なども検討)に分け、「重版」用の75項目を審議し、それらを採用、不採用、改訂用、調査用に仕分けいたしました。したがって、「調査用」と仕分けされた項目を調べなくてはなりません。

次回8月24日の第4回会議で「調査用」と仕分けされた項目の採用、不採用が明確になり、「重版」における訂正項目がはっきりすると思います。

秋の「事典」重版の印刷・頒布に向けて順調に進んでいますので、もうすこしお待ちください。

11月9日第7回学習会テーマ決定

11月9日の学習会は講師予定の西川武臣氏が開港資料館の副館長になられ、お忙しくなり、「金沢区に残る古文書から(仮)」と仮題としてきました。今般ご多忙中にもかかわらず「明治・大正の金沢の小学校」と決めていただきましたので改めてご案内します。

記

日時：11月9日(土) 9:30～12:30
場所：能見台地区センター 多目的室

テーマ：**明治・大正の金沢の小学校**

講師：横浜開港資料館 副館長 西川武臣氏
内容：金沢区に残る明治時代の小学校の先生の日記や小学校に残されていた記録等から、現在忘れられようとしている明治・大正時代の小学校の教育の実態にスポットをあてる。

学習会欠席時の資料等の取扱い

学習会欠席者、特に長期欠席者の資料取扱いに困っています。つきましては、7月の学習会、ホームページおよび“わ”の会通信 No. 256 でお知らせ致しましたように、学習会で配布の資

料等(講座資料、会報、各種行事案内、総会資料など)の取扱いを下記のように変更させていただきます。

- ① 欠席の場合は、次回学習会で受け取っていただくことを原則とする
- ② 宅配や分科会でお渡しすることは廃止
- ③ 3回連続して欠席の場合は、その時点までの3回分を処分

注1) 知人などによる代理受け取りがあった場合は資料配布上では出席とする

注2) 10月と11月の学習会分については2月の公開講座を、2月の会報は5月の総会・学習会を受け取りの期限とする

注3) 体調不良等で長期に学習会を欠席する場合で、運営委員会に届けのあったときは、特別に資料等を保管する

開始時期と移行措置

実施開始は7月の第3回学習会からとします。ただし、移行措置として、本年第1回と第2回

学習会での配布資料等については第5回学習会を受け取りの期限とします。

変更の理由

これまで学習会で配布の資料等は、① 学習会での本人受領および知人による代理受領、② 各分科会の例会を利用して配布、③ 郵送・宅配便等による配達、④ 運営委員による自宅ポストへの配達 のいずれかの方法で、欠席の場合でも全資料が各会員のお手元に届くようにしてきました。

②③④は運営委員が分担して対応して参りましたが、大きな負担が掛かり、対応が困難になってきております。また、③は貴重な会費を消費することになります。

運営委員会で検討の結果、上記のように厳しい内容に変更いたしますが、事情御理解の上、御協力をお願い申し上げます。



学習会の概要とアンケート結果

第1回 「私の映画遍歴」

開催日：平成 25 年 5 月 11 日（土）

場 所：能見台地区センター 多目的室

講 師：「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃 氏

出 席：会員 82 名（出席率：67.8%） ビジター：1 名

概要

1. 戦後映画界が復活するまで

戦前の映画は戦争翼賛の作品が主流で企画からシナリオを検閲され通過しないと作ることが出来ませんでした。

昭和 20 年 8 月終戦を迎え安心して夜を寝られる平和の喜びを感じ食料不足で苦しい生活でしたが文化に飢え出版と映画に対する期待が持たれました。

日本の敗戦に伴い GHQ（連合軍司令部）の占領政策としての映画製作の基本方針がだされました。

- ① 軍国主義を鼓吹するものの禁止
- ② 自由主義的活動の推進

製作にあたり企画・シナリオは事前に提出し許可を受け製作に取り掛かりました。そうした状況の中にも映画関係者は精力的に取り組み、戦後日本映画第一作として 10 月 11 日“そよかぜ”が封切られました。抑圧されていた時代から自由に撮影に取り組み明るく希望に満ちた自由で明るい作品になりました。

並木路子が歌う“リンゴの唄”が挿入歌として大ヒットし作品に花を添えました。

大都市においては戦災で 513 館が焼失し仮

設の上映館を作りましたが、残った 845 館の上映館には観客が殺到しラッシュの電車のようでした。

2. 年代ごとの作品の状況

前段の状況が話された後、佐藤氏が編集した年代ごとに話題になった作品の画面を見ながら政治的、経済的な背景と作品との関係が話されました。

特に GHQ が自由主義推進として各映画会社に労働組合の結成を奨励し 46 年から続いた東宝の争議は、3 年も続き多くの波紋を残しました。新東宝の発足と監督や俳優の移籍などが日本映画の隆盛に大きな影響を残しました。

“わ”の会の会員は殆どが当時小学生から中学生であり都会又地方で違った生活環境で生きてきた歴史を持っており、佐藤氏の年代ごとに映画に撮られた逸話の説明に昔を思い楽しい時間でした。

3. 名女優と作品

予定された時間も経過し時間が足りなく取

り敢えず本題についての説明は終了しました。引き続き佐藤氏の用意した日本の名女優の作品について希望者についてスライドで説明が有りましたが、ほとんどの人が残り、戦後の日本映画に美しさを添えた有名女優の顔を画

面いっぱい写しながら作品の話はもとより逸話も添えて話されました。懐かしく楽しい時間でしたがもう少しゆっくりした時間があれば佐藤氏にも参加者もよかったかな思いつつ終了しました。(貝田 記)

アンケート結果

①講演内容評価

大変良かった：26 良かった：4 普通：0 つまらなかった：0

②良かったこと

- ・佐藤講師の名解説で当時の映画が懐かしく思い出され感無量だった(11)
- ・戦後映画の代表作を紹介しながら時代の背景をまじえての話は大変良かった(10)
- ・青春時代を思い出した(3)
- ・佐藤講師の映画に対する深い愛情とうんちくに敬服(2)
- ・映画が好き、見たい(2)
- ・他では得難い学習会(1)
- ・最後の女優のサービスも良かった(1)



佐藤 晃 氏

第2回 「源頼朝・北条政子と金沢・六浦」

開催日：平成25年6月8日(土)

会場：金沢地区センター 大会議室

講師：歴史研究家 盛本 昌広 氏

出席：会員86名(出席率：71.1%)

ビジター：2名

概要

金沢・六浦の地は源頼朝・北条政子との深い関わりを持つことを瀬戸神社に関する伝承や「新編武蔵風土記稿」「吾妻鏡」「平家物語」「太平記」などの資料から明らかにされた。さらに、県立金沢文庫に於いて特別展「瀬戸神社」(4/26(金)～6/9(日))が開催されている。瀬戸神社・琵琶島の神像などが出展されており、拝観と本日の学習会を上手にリンクさせる事によって、より効果的に理解を深める事が出来る機会であった。

瀬戸神社の創建は「新編武蔵風土記稿」では、社伝によれば治承4年(1180)源頼朝が伊豆の三島明神を勧請したのが発祥であるという。一説には、神名の木札を海中に投げ入れて、自然に留まった瀬戸の入江(今の地)へ造営したと「吾妻鏡」にある。また、「鎌倉誌」に飛石飛来起源説もある。いずれにしても鎌倉幕府草創当時に源頼朝によって創建されたという説がいわれている。

琵琶島弁財天は、治承4年に北条政子が近

江竹生島弁財天を勧請し、瀬戸神社前の突き出した海中に築島して祀った。頭に蛇体である宇賀神を戴く弁財天像である。弁財天は元々は仏教と共に伝来した。のちに神社の祭神となり蓄財の神として信仰されるようになり、現在は七福神の一つとして崇められている。

ビヤクシンは北条時頼・時宗などとの関係が深く、鎌倉の建長寺や円覚寺、さらに奥州・松島などの禅宗寺院に多く見受けられる。したがって六浦を支配していたのは北条氏（金沢氏）であり、ビヤクシンの並木も北条氏（金沢氏）によってこの頃に植えられたとされている。瀬戸神社にあった大きなビヤクシンの木であるが、延宝8年(1680)の大風で倒れてしまった。その一部は社殿の左右の羽目板として使われているという。残りは今も鳥居を抜けて直ぐの左側に枯れ木で残されている。琵琶島弁財天社にも古いビヤクシンが残っている。

源義朝は、保元の乱(1156)以前から六浦庄を所有していたという。さらに頼朝にとっても大切な領地であった。それは六浦の地は上総に渡る重要な場所であり、鎌倉から上総へ

の中継基地としても重要であったのである。

一方六浦は「吾妻鏡」によると建久2年(1191)武蔵国六浦の海辺にて囚人の平家家臣である上総五郎兵衛尉忠光が侍所の和田義盛に斬罪に処せられたという。その頃から六浦は鎌倉の四隅を固める陰陽道の祭儀である四角四境祭の斎場の一つに挙げられていた。

源頼朝の庶子である貞暁にも若干言及された。源頼朝の子貞暁の母は常陸介時長の娘である。貞暁は庶子であったがゆえに、北条政子の妬みより、上京して京都仁和寺勝宝院に入り出家した。その後勝宝院の院主になられている。

六浦庄は義朝・頼朝・貞暁に面々と受け継がれている。六浦というのは源氏との関係が深かった。そういう観点から瀬戸神社を源頼朝が琵琶島弁財天社を北条政子が勧請した可能性はあるといわれている。(金久保 記)

アンケート結果

① 講演内容

大変良かった：14 良かった：15 普通：3 つまらなかった：2

② 評価

- ・資料の詳しい説明でよく分かった (16)
- ・六浦について興味深い話だった (5)
- ・貞暁のことが聞けてよかった (2)
- ・主題のポイントから少し離れた感じがした (4)
- ・深い話ではなかった (2)
- ・後半の部分を聞きたかった (2)
- ・浄願寺～上行寺～龍華寺の説明の欠落が残念 (1)
- ・題名と内容が違いすぎる (1)

今回のアンケート提出率は残念ながら 35%だった。

もっと多くの会員の出席とアンケートの提出をお願いする次第である。



盛本 昌弘 氏



第3回 「畠山重忠・重保父子と釜利谷」

開催日：平成25年7月13日（土）

場所：能見台地区センター 多目的室

講師：歴史研究家 盛本 昌広 氏

出席：会員87名（出席率：71.9%）

ビジター 2名

概要

1. 釜利谷に残る伝承

『武蔵風土記稿』に次の記述がある。坂本村に重保の墓（五輪塔）があり、村の北部、宿村との境付近で重保が自害・埋葬されたという。宿村に畠山六郎重保にちなんだ小名「六郎谷」がある。宿村の旧家藤右衛門は重保の嫡流と伝わる。宿村の東光寺には寺宝として重忠の鞍が伝わる。その昔、坂本村は重忠の領地であったことは正しいと分かる。坂本村には2本の川があり、小名「松橋」の辺りで合流し、二俣川と呼ぶ。また「松橋」という橋がある。東光寺の門の脇の墓は重忠のものと伝わる。

その他に、白山道トンネル近くの六郎ヶ谷に重保の墓と伝わる五輪塔、東光寺近くに六郎橋がある。東光寺の寺伝では開基は重忠、本尊は重忠の念持仏・薬師如来とされる。

2. 出自

桓武平氏の出。重忠の5代前の武基は秩父別当と呼ばれ、この頃に畠山氏は秩父に定着。その後、鎌倉街道沿いに一族が勢力を広げ、重忠の頃には小山田（町田）、榛谷（保土ヶ谷）、稲毛に進出していた。重忠は秩父の菅谷館に居住。

3. 頼朝挙兵と畠山氏

『平家物語』につぎの記述がある。畠山一

族は平家に仕えて強き敵。稲毛重成は頼朝の石橋山の陣を攻撃。重忠は石橋山の敗戦の報を聞き、退却しようとした三浦義澄と小坪坂で戦い、さらに三浦氏を追撃し、衣笠城を落した。

その後、頼朝が房総半島で勢力を取り戻し、武蔵に入ったとき、重忠らの畠山一族は頼朝側につき、重忠は相模国入りの先陣を務めた。

4. 鎌倉の屋敷

重忠の鎌倉屋敷の位置については2説あるが、いずれにしても筋替橋付近にあった。

5. 重忠・重保の大力説

重忠については、宇治川渡りのとき後ろからつかまってきた大串重親を岸に投げ上げた。敵の首をねじ切った。鶴越では馬をかついで下りた。力士との相撲では相手を締め付けて失神させ、肩の骨を砕いて、再起不能にしたなどの話がある。

重保については、由比ガ浜の合戦で人を礫のように投げたという。

6. 重忠と音楽

重忠は音楽にも優れ、鶴岡八幡宮で静御前の舞が行われたとき、伴奏の銅拍子を打った。

7. 奥州合戦

重忠は奥州合戦の先陣を務めた。このとき、人夫と鋤鍬を携えた。国見駅に到着すると、人夫と鋤鍬で堀を埋めた。用意周到の知恵者であった。

8. 重保・重忠殺害

北条時政の後妻である牧の方は平賀朝雅らと計って、対峙する重忠・重保親子の殺害を計画した。稲毛重成の招きで、武蔵国から鎌倉に参着した重保を三浦義村が殺害。重忠が鎌倉に来るといので、大部隊が二俣川に出陣した。

重忠はわずか134騎で二俣川に着き、鶴ヶ峰の麓に陣を敷いた。討手は多かったが、重忠は戦うことを決意。互角の戦いが続いたが、やがて重忠に矢が当たり、首を取られた。また、榛谷、稲毛などの畠山氏も三浦義村らに討たれた。これで畠山氏一族は全滅となった。

9. 重忠の死後

牧の方が平賀朝雅を将軍にするという陰謀があるとして、政子によって牧の方の一派は失脚させられた。また、平賀朝雅は京都で討たれた。結局、畠山氏を滅ぼした牧の方の一派も滅ぼされた。 (金間 記)

アンケート結果

①全体評価

大変良かった：14 良かった：15 普通：3 つまらなかった：2

②具体的には

- ・畠山氏の系統・背景・滅亡が丁寧な説明でよく分かった(14)
- ・話し方がよく、声も大きくてよい(4)
- ・資料の地図が小さく見えなかった(2)
- ・地図を使つての説明がよかった(1)
- ・資料に沿つた講義でよい(2)
- ・畠山氏と釜利谷の関係が不足(4)
- ・細かすぎ、もう少しはしょつてもいい(3)
- ・室町幕府の管領畠山氏につながつたことを説明すべき(1)
- ・大力より三浦氏、北条氏との関係に重点を置いてほしかった(1)



盛本 昌弘 氏



「懐かしの映画」鑑賞録 No.11

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 25 年度第 2 回 鑑賞会

〈鑑賞日:2013.4.22〉

一枚のハガキ

製 作 : 2011 年 近代映画協会 上映時間 : 114 分

脚本・監督 : 新藤兼人

出 演 : 豊川悦司、大竹しのぶ、六平直政、柄本明、倍賞美津子、大杉漣

そ の 他 : キネマ旬報ベストテン第 1 位、毎日新聞映画コンクール日本映画大賞
ブルーリボン賞、日本アカデミー賞作品賞受賞

(あらすじ)

昭和 18 年、戦争末期に召集された 100 名の中年兵士たちは、上官のクジ引きで赴任先が決められ、戦地に赴くことになった。出発前夜、松山啓太(豊川悦司)は仲間の兵士森川定造(六平直政)から妻友子(大竹しのぶ)からの一枚のハガキを手渡された。ハガキには「今日はお祭りですが、あなたがいらっしゃらないので、なんの風情もありません」と書かれていた。定造はクジでフィリピンに行くことが決まっています、死を覚悟しており、宝塚に赴任する啓太にもし生き残ったら妻

を訪ね、このハガキを読んだことを伝えてもらいたいとハガキを託される。ほどなく、定造の留守宅に戦死の報が入り、白木の箱が届く。土地の習慣で友子は定造の弟の三平と再婚させられる。しかし二人の生活も束の間で、三平は召集され、沖縄戦で戦死する。ショックで父親の勇吉(柄本明)は心臓麻痺で死亡し、母のチヨ(倍賞美津子)は運の悪さをはかなんで縊死する。友子はひとりになった。終戦後、生き残った啓太は定造から託されたハガキを持って友子のもとを訪ねた……

(解説)

昨年 5 月 29 日、満 100 歳で亡くなった新藤兼人監督の遺作である。映画人生最後の作品として、自分の戦争体験をもと

に、作った映画である。戦争末期、徴集された 100 人中 94 人が戦死し、6 人のみが生き残って帰ってきた。その一人であ

る新藤兼人監督は、それを自己の原罪として抱えて生きてきたという。98歳のとき、「言い残したことを全部言う」としてこの映画に取り組んだのである。

シナリオは4年前に書かれていたが、製作費の工面が立たず、映画化は遅れていた。しかし、残された時間がないということでスタートしたという。新藤監督は生き残った罪を国家のみの責任とすることなく、自分の責任であるとして、問いかけたのである。映画の中で、友子の

家で、友子が啓太に「あなたは何故生きているのか」と問い詰めるシーンがある。師匠の溝口健二から学んだ5分以上の長廻しのワンショットは圧巻である。熱演する豊川悦司と大竹しのぶの演技は新藤監督の思いが乗り移っている。

「一枚のハガキ」は2011年の日本映画の各賞に輝いた。新藤監督は責任を果たしてから1年後100歳の誕生日の翌月、長い眠りについた。

平成25年度第5回 鑑賞会
〈鑑賞日：2013. 6. 10〉

八月の鯨 The Whales of August

製作：1987年 アメリカ

上映時間：90分

監督：リンゼイ・アンダーソン

出演者：リリアン・ギッシュ、ベティ・デイヴィス、アン・サザーン、
ヴィンセント・プライス

(あらすじ)

リビー（ベティ・デイヴィス）とセーラ（リリアン・ギッシュ）の姉妹は長い人生のほとんどを一緒に過ごしてきた。毎年、夏の間は、二人はアメリカの大西洋に面したメイン州のセーラの別荘に滞在する。そこの入江には昔、八月になると鯨がやってきた。少女時代、二人は幼なじみのテイシャ（アン・サザーン）と鯨を見に駆けていったものである。それも、遠い昔のことだ。裕福だった姉のリビーは第一次大戦で夫が戦死した妹のセーラを助けてくれた。そのリビーが夫を亡くし、目が不自

由になってからは、セーラが姉の面倒をみている。リビーはわがままになり、時折、言葉にとげを持つようになる。自尊心の高いリビーは、目が不自由で、思うようにならない自分に腹が立つのだ。

ある日の午後、幼なじみで夫を亡くした陽気なテイシャがお茶に訪れ、近くに住む元ロシア貴族のマラノフ氏（ヴィンセント・プライス）が、日課の釣りの帰りに獲物を届けてくれた。セーラは魚のお礼に、マラノフ氏を夕食に招待する……

(解説)

撮影当時、リリアン・ギッシュ 93 歳、ベティ・デイヴィス 79 歳、ヴィンセント・プライス 76 歳、アン・サザーン 78 歳。いずれもハリウッド映画で、人生の年輪を積み重ねてきた名優たちである。監督のリンゼイ・アンダーソンはハリウッドを支えたギッシュ、デイヴィスの二人の大女優を軸として人生の黄昏を迎えても、なお燦然たる光を放つ老人像を創り上げた。この映画では二人の姉妹の夫を偲ぶ場面が切なく心に沁みる。目の見えぬリビーは机の引き出しから亡夫の遺髪を取りだし口と頬を撫でる。不思議なエロチシズムがベティ・デイヴィスの素晴らしい演技により画面に漂う。セーラは亡夫の写真を前にしてワインを飲み、小さな写真に唇をつける。じっと夫の写真を見つめるセーラは無表情であるだけにかえって心を打つ。姉妹は岬まで散歩する。セーラ「鯨は行ってしまったわ」リビー「分かるものですか」。二人の後姿

で映画は終わる。老いてもなお二人は未来を見つめている。残光は美しく、人間讃歌の映画である。

東京、岩波ホール of 支配人高野悦子はこの映画の魅力に惹かれ、1988 年、ホール創立 20 周年を記念して上映した。映画は 31 週の異例のロングランとなり、13 万 5 千人の観客が見たという。彼女は本年 2 月～3 月、ホール創立 45 周年を記念して、再度上映したが、その間の本年 2 月 16 日死去。享年 83 歳。

リリアン・ギッシュ (1893～1993)

サイレント映画時代の代表的大女優。代表作『散りゆく花』(1919)、『イントレランス』(1916)

ベティ・デイヴィス (1908～1989)

アカデミー主演女優賞ノミネート 10 回。受賞 2 回。代表作『青春の抗議』(1935)、『黒蘭の女』(1938)、『イヴの総て』(1950)

平成 25 年度第 6 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013. 6. 24〉

カルメン故郷に帰る

製作：1951 年(昭和 26 年)

松竹

上映時間：86 分

監督：木下恵介

出演：高峰秀子、小林トシ子、佐野周二、井川邦子、笠智衆、坂本武

佐田啓二、望月優子、見明凡太郎

(あらすじ)

浅間山麓で牧場を営む青山の正さん(坂本武)の娘のきん(高峰秀子)は東京でストリッパーを

していて、同じストリッパー仲間の朱美(小林トシ子)を連れて故郷に帰って来た。きんは芸術家

気取りで、故郷に錦を飾ったつもりである。二人は派手な服装と突飛な行動で、村中に騒ぎを起こし、父親の正さんは熱を出して寝込んでしまう。二人は村の運動会に出かける。戦争で失明した田口さん(佐野周二)が自作の曲を演奏中に、朱美は若い小川先生(佐田啓二)を誘惑しようと腰を振ると、すぐスカートが落ちて大騒ぎとなった。田口さんの曲は台なしとなり、村人

からは非難ごうごうで、さすがに二人は落ち込んでしまう。名誉挽回とばかり二人は、この村で踊りの公演を考え付く。運送屋の丸十(見明凡太郎)は大乗り気で、倉庫の中に舞台を作り、大宣伝を始めた。公演は大成功で、二人は丸十から貰った出演料を正に渡し、正はそれをそっくり学校に寄付した。二人は気分よく東京に帰った。

(解説)

わが国初の総天然色映画である。松竹と日本映画監督協会が企画し、松竹が製作した。監督は当時松竹の若きエース、木下恵介に決まる。木下に決めたのは日本初の総天然色映画のため、松竹入社時、撮影監督助手を3年務め、撮影技術に精通していたことである。木下恵介は、はじめアルプスを背景にしたドラマを企画したが、撮影予定の10月頃は紅葉の変化が激しいことから、これを避け、浅間山麓を舞台にした喜劇を選んだという。監督第1作『花咲く港』をはじめ、『お嬢さん乾杯』『破れ太鼓』と喜劇に特別な才能を示す木下の選択は賢明であったと言える。美しい自然に囲まれた浅間高原に繰り広げられる人間ドラマは、当時の日本人のものの考えかた、風俗が織り込ま

れ、世相が活写されている。これが50年を経た今日でもこの映画が生命力を保ち続けている原因と思う。

高峰秀子の起用は成功した。敗戦の翌年、東宝争議で撮影が中断されている時、高峰は人気歌手灰田勝彦と共演して日劇の豪華ショー『ハワイの花』に出演し、大喝采を浴びたという。その時のフラダンスの特訓が生きたと言われている。この映画は木下恵介と高峰秀子の初コンビの作品である。二人の組み合わせは、その後『二十四の瞳』、『喜びも悲しみも幾歳月』の名作を生みだしていく。日本初の総天然色映画は、国産のフジカラーによるカラー映画であり、音響、色彩とも国産のシステムを使用するという画期的なものであった。



『ビルと夕日』

「パソコンを使いこなす会」

—ワードで絵を描く—

「浮雲俳句会」抄録 No.22

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

【 夏 : Summer 】

俳句における「夏 : Summer」は、立夏（今年の場合 5 月 5 日）から立秋（今年の場合 8 月 7 日）までの約 3 ヶ月間である。

この夏の 3 ヶ月は、「三夏」といって、初夏・仲夏・晩夏に分けている。「初夏」は最初の 1 ヶ月、すなわち陽暦の 5 月であり、新緑の美しい風薫る爽快な季節である。「仲夏」は、陽暦の 6 月で日本列島に梅雨前線が停滞し、雨がちのうっとうしい季節だ。「晩夏」は、陽暦の 7 月で暑さのさかりだが、後半にはどことなく秋の気配のしのび寄る季節だ。

続いて、この夏の 3 ヶ月。旬の季語を、一つずつ選んでみろといわれれば、次のような季語が浮かんでくる。

① 「初夏」の季語

夏めく（時候）・風薫る（天文）・山滴る（地理）・子供の日（人事）・祭（宗教）・初鯉（動物）・牡丹（植物）。

② 「仲夏」の季語

短夜（時候）・梅雨（天文）・青田（地理）・更衣（人事）・櫻桃忌（宗教）・時鳥（動物）・紫陽花（植物）。

③ 「晩夏」の季語

暑し（時候）・雲の峰（天文）・滝（地理）・夏休み（人事）・富士詣（宗教）・蟬（動物）・向日葵（植物）。

続いて、この夏の 3 ヶ月。先達の詠まれた秀句を 10 句選んでおこう。

五月雨を集めて早し最上川	芭蕉
夏草や兵どもが夢の跡	〃
閑かさや岩にしみ入る蟬の声	〃
さみだれや大河を前に家二軒	蕉村
蟻の道雲の峰よりつづきけん	一茶
白牡丹といふといえども紅ほのか	虚子
水ゆれて鳳凰堂へ蛇の首	青畝
梅雨の海静かに岩をぬらしけり	普羅
父と子の水着あゆめり逗子銀座	時彦
神田川祭の中をながれけり	万太郎

〔 秀作 〕

天賞

赤門の表参道花筵 好童

シンプルなお当地俳句。俳句はシンプル・イズ・ザ・ベスト(Simple is the best) といいますが、引き算により単純化されたものが一番です。

掲句は、称名寺の〈赤門〉をくぐると、〈表参道〉が続き、そこには桜の花びらが一面に降り積もり、まるで〈花筵〉のようだというのだ。そのときの作者の発見の驚きとともに、僅か8文字の俳句の背後に、大きな世界を詠み切っている。この世から、花浄土の称名寺のあの世までもが、彷彿と浮かんでくる秀吟である。

地賞

仰ぎ見る櫻吹雪の天守閣 とも女

典型的な写生句。画家があるものをスケッチするように、即物写生した佳句。

多分、会津若松の鶴ヶ城での囑目吟であろう。丁度いまNHKの大河ドラマ「八重の桜」で、幕末の頃の鶴ヶ城が、幾度も登場する。当時の歴史の中における鶴ヶ城の有様を、思

い描きながら、現在の鶴ヶ城、しかも、それは、〈仰ぎ見る〉〈櫻吹雪〉の〈天守閣〉であったのだ。

人賞

苗床の水にゆらぎし磐梯山 一紀

品格のある好吟。〈磐梯山〉は、会津地方のシンボルの山。猪苗代湖の北に聳える1816mの独立峰。何回もの爆発により、山頂が二つに分かれた。またこれらの爆発によって、五色沼・秋元湖など大小200余りの湖沼が誕生した。

稲の〈苗床〉の〈水に〉、会津〈磐梯山〉が、揺れているというのであって、名詞+名詞+動詞+名詞の虚子型の格のある句に仕上がった。

〔 特選 〕

湖に磐梯浮かぶ木の芽晴れ	十九
春田打つ畝の先なる磐梯山	一幸
絡まりし甘茶の柄杓円覚寺	一馬
春惜しむ木管楽器のお別れ会	勇平
藤すだれ三脚立てて写しをり	国眼
たまゆらの鶯の声氷取沢	祥代

〔 秀作 〕

天賞

「墓がある」妻の雄叫び勝手口 国眼

〈墓(がま・がまがえる)〉は、ひきがえるともいい、わが国最大の蛙。体長12cm位で、夕方に出てきて蚊やみみずなどを食べる。グ

ロテスクで鈍重、動作も遅緩。それがかえって自分を思わせるためか、秀句の多い季語である。

掲句は、〈勝手口〉の外で、〈墓〉を見つけた奥さん。驚いて〈雄叫び〉をあげたのである。臨場感に溢れ、おどろおどろした様子が、よく伝わってくる秀吟である。

地賞

母の日を妻妻の日と読み替へる 一馬

諧謔性に富んだ心情俳句。〈母の日〉は5月の第2日曜日。子供たちが母に感謝を捧げる日である。

ご主人の母親は、既に他界しているので、奥さんがその代役を引き受け、〈母の日〉を〈妻の日に読み替へ〉て見たらと提案したのである。まさにおもしろみのある、おっとりした、洒落を見事に詠いあげている。

人賞

虹の橋お鉢に懸る三原山 十九

〈三原山〉は、伊豆大島にある 758mの活火山。幾度となく噴火を繰り返した。わけて

も昭和61年の大爆発では、全島民が大島から脱出、一ヶ月の避難生活をおくった。

この〈三原山〉。山頂の火口付近の〈お鉢〉に〈虹〉の〈橋〉が、懸かっていたのである。

ここに〈三原山〉の歴史を脳裏に描きながら、一年間の山岳俳句のピリオドとしたい。

〔 特選 〕

- 卯波立つ海原越しに三原山 一幸
- 筍の炊き立て父母に供へけり とも女
- 竹の皮脱ぐ音幽か報国寺 祥代
- 亀の子のシンバル音に首ゆする 勇平
- 花水木日暮れてなほも薄明かり 重九
- ずかずかと市民の森に夏来たる 二祥

《第15回金沢区民俳句大会への参加 H25年6月2日》

今回の区民俳句大会は、回を重ね、一つの区切りである15回目の記念大会であった。それだけに会の運営方法においても、過去の運営実態を踏まえながら、若干、軌道修正されていた。例えば、投句に関しては、当季雑詠2句の提出は同じだが、そのうち1句については、出来れば「ご当地俳句」をお願いした大会であった。

このような中、〔秀作〕3句中、天賞と人賞を、また〔特選〕5句中、2句を、わが浮雲俳句会のメンバーが手中に収めた。

〔 秀作 〕

天賞

不動池緑陰影を浮かべをり 一馬

地賞

瀬戸の路地どこを抜けても夏の海

(他の結社)

人賞

鳶の輪の高き野島の梅雨暗間 十九

ここでは、わが「浮雲」のメンバーの句に絞って、選評しておきたい。

先ず、天賞は、ご当地能見台森の東麓にひろがる〈不動池〉の囑目吟。〈不動池〉は、関ヶ谷不動尊の下にある。池に張り出した東屋は勿論、山際には浮島もある。ことにこの季節、能見台森の緑が池にかぶさり、池を覆い隠すような状態になっている様は、圧巻だ。作者は、この状況を、早速、〈不動池〉が、〈緑陰〉の〈影を浮かべ〉ていたと、ストレートに詠嘆したのである。

次に、人賞は、ご当地野島での写生句。〈野

島)は、鎌倉時代から江戸時代には、船の発着場や漁村として賑わった。とくに野島西麓一帯は、平潟湾に面し、古くから漁村として栄えていた。歌川広重の『金沢八景絵図』の一つ「野島夕照」にも登場。

**夕日さす野島の浦にほす網のめならぶ
里のあまの家々 (京極高門)**

このご当地(野島)の(梅雨晴間)に、(鳶の輪)が空高く描かれているというのだ。

[特選]

平潟湾風に光に夏つばめ (他の結社)
心まで染みる万緑塩の道 //
瀬戸神社夏風切って居合道 //
干し竿はハンガーずらり更衣 国眼
梅雨晴れ間野島沖行く真帆片帆 とも女

ここでも、わが「浮雲」のメンバーの句に絞って、コメントしておきたい。

先ず、1句目は、旬の句いっぱい的人事俳句。今年も(更衣)の季節を迎えた。政府は、6月から9月までを、スーパー・クールビズの期間と銘打ち、6月初めの閣議においては、全閣僚が、沖縄のかりゆしウェアを着用した。これは夏季の省エネルギー対策を

目的とした軽装化キャンペーンで、期間中は、ノーネクタイ・半袖シャツ・かりゆしウェア・ポロシャツなど衣服の軽装化を求めたものである。

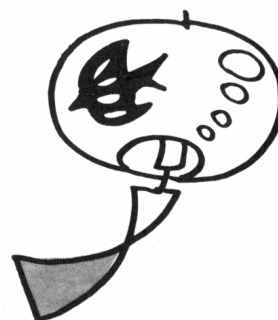
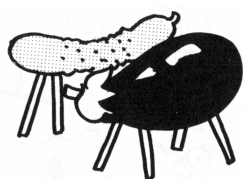
掲句は、今年の更衣にあわせ、(干し竿はハンガーずらり)と、今までの衣服を洗濯し、新しい衣服に(更衣)しようというもので、旬の季節がいっぱいの好吟だ。

次に、2句目は、ご当地俳句の典型句。広重の『金沢八景絵図』の「乙艦帰帆」には、漁を終えた白帆の舟が、滑るように帰った様が描かれている。

**沖津舟ほのかに見しもとる梶の乙艦の浦
にかへる夕波 (京極高門)**

掲句は、乙艦の沖ではなく、(野島沖行く真帆片帆)が、(梅雨晴れ間)に見られるというのである。

いずれにせよ、今年次大会では、かなりのご当地俳句の投句があり、しかも、佳句、残る句が多かったことは、非常に嬉しい限りである。俳句を志す者にとって、当該地域の花鳥諷詠を詠った、ご当地俳句づくりは、最大の目標であり、かつ、最高の喜びでもあるので、今後も継続されんことを切望するものである。



「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.2

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣悦男

今回は6月20日(予備日21日)に予定していた独自コース5番、栃木県の「稜線をたどるみち」は両日とも雨天であったため中止とした。よって今回の掲載は2コースだけとなった。

独自コース4番 天狗伝説・最乗寺へのみち

実施日：平成25年5月16日 晴れ 参加者：19名

所在地：神奈川県南足柄市

行程：JR横浜駅(発)～1時間30分～JR小田原(大雄山線乗換え)～和田河原駅(着)
～徒歩2時間15分～**最乗寺**～バス～大雄山駅～徒歩50分～アサヒビール工場～バス～松田駅。 歩行距離約10km

新緑の季節、永平寺、総持寺と並ぶ曹洞宗の名刹、大雄山最乗寺(開基1394年、600年余の歴史をもつ関東の霊場)を訪ねた。道すがら、シャクナゲ、ウツギ、ヤマボウシ、ドウダンツツジ、シラン、コデマリなどの花々に出会う。なお、**最乗寺参道**、「**天狗のこみち**」は神奈川の古道50選に、樹齢400年～600年の杉並木は、県天然記念物に指定されている。

ご存知ですか！天狗伝説

大雄山最乗寺の天狗伝説：了庵慧明禅師(りょうあんえみょうぜんじ)の弟子だった道了尊者は、師匠の了庵慧明禅師が最乗寺を建立するおりに、近江の三井寺から天狗の姿になって飛んで来て、神通力で谷を埋めたり、岩を持ち上げたりして寺の建設を手伝った。75歳で了庵慧明禅師がこの世を去ると、寺を永久に守るため天狗の姿に化身して、山中へ飛び去ったといわれ、以来、寺の守護神として祀られている。下駄は左右一対で役割をなすところから、夫婦円満、夫婦の和合に通ずるの意味あい。

天狗寺歴史をつつむ若楓

大雄山最乗寺



左：小天狗(またの名を烏天狗)
右：大天狗



世界一大きい天狗の高下駄
重さ1000貫(3.8t)高さ3m強

独自コース6番 山梨県 富士吉田口一合目から五合目

実施日：平成25年7月18日 晴れ 参加者：18名

所在地：山梨県富士吉田市

行程：JR東神奈川駅(発)～1時間～JR八王子経由～高尾駅～富士急富士山駅9時19分(着)～タクシー～北口本宮富士浅間神社(参拝)～タクシー～馬返(1450m)10時30分(発)～徒歩3時間20分(含む昼食時間)～吉田口五合目(佐藤小屋)～45分～富士スバルライン五合目(2304m)14時50分(着)～河口湖駅15時55分(着)、横浜駅19時30分(着)。歩行距離約5.5km、標高差875m。

みどころ：世界遺産構成要素の一つ北口本宮富士浅間神社とその建物群・樹叢林・豪華な神輿と赤富士神輿。また登山道の石畳と浸透枳(雪解け水や雨での道の洗掘を防ぐ)

自然観察：・馬返しまでの「草山」、五合目までの「木山」、頂上までの「焼山」と言われるように植生や自然の変化。花はシモツケソウ・サラシナショウマ・オダマキ・ウツギ・エゴノキ・シクナゲなど。

・佐藤小屋五合目からスバルライン五合目にいたる御中道からの河口湖や山中湖方面の眺望。

火山鎮魂の神！木花開耶姫

富士山へは、江戸時代から「1度登らぬ馬鹿、2度登る馬鹿」という言葉がある。主な登山ルートは4つ、吉田口(河口湖口：スバルライン)・富士宮口・須走口・御殿場口。また富士吉田市の街なかの目抜き通りに10メートル近い高さの金鳥居が聳え立つ。俗世間と信仰の世界を隔てる結界。なお富士浅間神社は富士火山鎮魂の神、「木花開耶姫」を奉ったのが始まり。

北口本宮富士浅間神社



富士吉田市街の金鳥居



本殿で拝礼

富士登山浅間様へ一礼す

・掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。

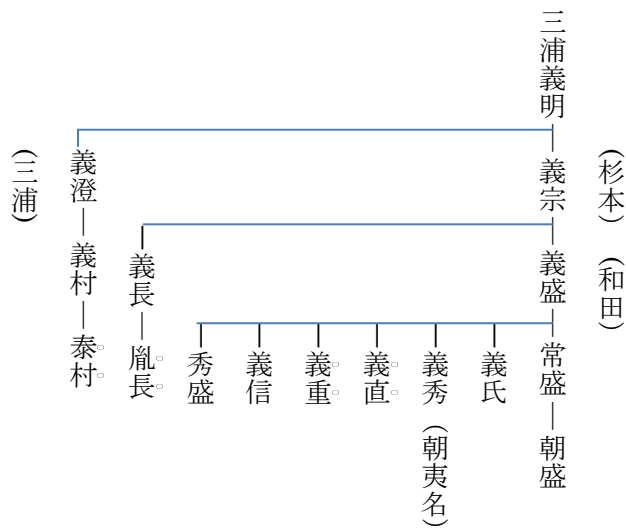
小俣 悦男 ○メールアドレス：e-omata@mx2ttcn.ne.jp ○電話番号：045-782-8147

・定例概要に載っている写真は全て“わ”の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで載っています。

列参の眉目を失うと称し、かの日よりことごとく出仕を止めをはんぬ。その後義盛件の屋地を給はり、いささか怨念を慰めんと欲するのところ事間はず替へらる。逆心いよいよ止まずして起ると云々」

(注)『吾妻鏡』は義盛の怒りの心情を二度までも強調し記述しています(傍線の部分)。

〔和田氏略系図〕



(つづく)『吾妻鏡』を読むは次号にて終わります

【『吾妻鏡』余録】

①『吾妻鏡』の執筆者たちは鶴ヶ岡八幡の「岡」の文字を、岡、岳、崗と勝手気ままに書いています。当時の人はおおらかです。

②昔から日本人はハイカラ志向が強く、官職名を唐名で使用していました。有名なのが水戸黄門(中納言の唐名)です。これより以前に武衛(頼朝)、羽林(頼家)、丞相(実朝)、右京兆(義時)など。

地名 職名 仮名 実名
 ③ 畠山 莊司 平 次郎 重忠
 姓名 通字

(注)

莊司 莊園の現地を支配する役人

仮名 固有名詞でなく、長幼の順序を示す。

通字 家伝の一字。重忠の父は重能。子は重保

④本稿の読み下し文は『全訳・吾妻鏡』永原慶二監修 貴志正造訳注(新人物往来社)から引用しています。

『吾妻鏡』を読む (9)
—和田合戦—

小倉 英明

前回に続いて三浦一族関連で「和田合戦」を読みます。和田義盛は三浦義明の孫で頼朝の挙兵に加わり、御家人を統率する侍所別当に補任しています。

一、建保元年（一一二一）二月十五日 泉親衡（ちかひら）による源頼家の遺児千寿擁立の陰謀が露見。これに義盛の四男義直、五男義重、甥の胤長（たねなが）が加担したとすることで三人は身柄を拘禁されます。

建保元年三月八日 巳酉 天霽（はれ）る。

「和田左衛門尉義盛、日上来総國伊北庄（いほく）にあり。この事によつて馳せ参じ、今日御所に参上す。御対面あり。その次をもつてかつは累日の労功を考へかつは子息義直、義重等が勘発の事を愁ふ。

よつて今さら御感ありて沙汰を經らるるに及ばず、父が数度の勲功に募りかの両息の罪名を除かる。義盛老後の眉目（びもく）を施して退出すと云々」

（注）勘発（かんぱつ）＝釈放。眉目（びもく）＝面目、名誉。

この年の前年には法然上人が入寂（八十才）。鴨長明が『方丈記』を著し、日蓮上人は和田合戦から十年後の誕生です。

同年三月九日 庚戌 晴る。

「義盛今日また御所に参ず。一族九十八人を引率し、南庭に列座す。これ四人胤長を厚免せらるべきの由申し請くるによつてなり、広元朝臣申次たり。

しかるにかの胤長は今度の張本として殊に計略を廻らすの旨、聞こしめすの間ご許容に能はず。すなはち行親、忠家等が手より山城判官行村が方に召し渡され、重ねて禁遏（きんおつ）を加ふべきの由、相州（義時）御旨を伝へらる。この間胤長が身を面縛（めんばく）して一族の座前を渡し行村これを請け取らしむ。義盛の逆心職としてこれに由ると云々」

（注）行親（ゆきちか）＝金窪行親。忠家（ちか）＝安東忠家、ともに北条義時の直臣。山城判官行村（やましろはんかんゆきむら）＝二階堂行村

二、義盛は將軍実朝に拝謁し子息らの赦免を嘆願して認められたが、甥の胤長だけは赦免されなかった。

さらに北条義時が胤長の家屋敷を幕府から拝領したことが義盛の屈辱に追い打ちをかけた。当時は罪を得た者の没収地は同族の者に与えられるのが慣習になっていました。

同年四月二日 癸酉

「相州（義時）、胤長が荏柄（えがら）の前の屋地を拝領せられすなはち行親、忠家に分ち給ふの間、前給人和田左衛門尉義盛が代官久野谷弥次郎を追ひ出し、おのおの卜居（ぼくきょ）するところなり。（略）

行事予定

2013年9月～11月の予定

注：表中の「CC」は「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月14日 金沢CC 9:30～12:00 瀬戸神社の神事と行事 瀬戸神社宮司 佐野和史 氏	10月25日(金) 集合：9:45 京急追浜駅改札前(2F 広場) <探訪> 追浜・夏島地区を巡る	11月9日(土) 能見台CC 9:30～12:00 明治・大正の金沢の小学校 横浜開港資料館 西川武臣 氏
寺社を巡る会	9月5日(木) 集合：神明前バス停 10:00 テーマ：釜利谷Ⅰ 訪問先：金蔵院、満蔵院、禅林寺、自性院、東光禅寺	10月3日(木) 集合：金沢文庫駅 10:00 テーマ：金沢Ⅰ 訪問先：宝蔵院、柴の熊野神社、称名寺、薬王寺	11月7日(木) 集合：六浦駅 10:00 テーマ：六浦Ⅱ 訪問先：千光寺、宝樹院、光伝寺、長生寺、上行寺、米倉陣屋跡
古文書を読む会	9:00～ 基礎講座「東海道中膝栗毛」		
	9月12日(木) 金沢CC 9:45～12:00 柴村斎田家文書 9月26日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 富士・大山道中雑記	10月10日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 柴村斎田家文書 10月24日(木) 金沢CC 9:45～12:00 秋葉山詣	11月14日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 柴村斎田家文書 11月28日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 秋葉山詣
ふれあいの道歩こう会	9月19日(木)(雨天20日) 独自コースN07 神奈川県箱根山中名瀑に行くー飛龍の滝	10月9日(水)～10日(木) 独自コースN08 宮城・岩手・秋田県紅葉と大展望の栗駒山	11月14日(木)(雨天15日) 独自コースN09 群馬県 妙義山お中道道を歩く
懐かしの映画を観る会	9月9日 12:15 金沢CC オーケストラの少女(米) 誰がために鐘は鳴る(米) 9月23日 12:15 金沢CC リオ・ブラボー(米)	10月14日 12:15 金沢CC 華麗なる一族(日) 10月28日 12:15 金沢CC 月の輝く夜に(米) 帰らざる河(米)	11月11日 12:15 金沢CC 地獄の黙示録(米) 11月25日 12:15 金沢CC 遥かなる山の呼び声(日)
浮雲俳句会	9月22日(日) 9:30～ 金沢CC 第73回例会 テーマ：伊豆の海・鯨	10月27日(日) 11:30～ 長浜公園界限 第14回金沢区民俳句大会吟行会への参加	11月24日(日) 9:30～ 金沢CC 第74回例会 テーマ：黒潮・鷹
パソコンを使いこなす会	9月3日(火) 金沢CC 画像処理実用講座 ー写真加工テクニックⅠー	10月1日(火) 金沢CC WORD実用講座 ー魅せる文書Ⅰー	11月5日(火) 金沢CC EXCEL復習講座 ー書式の応用ー
	9月24日(火) 金沢CC 画像処理実用講座 ー写真加工テクニックⅡー	10月15日(火) 金沢CC WORD実用講座 ー魅せる文書Ⅱー	11月19日(火) 金沢CC EXCEL復習講座 ー時間/日付の計算ー
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先： 学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 782-8147(小俣) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記 編集作業は発行2ヶ月前に始まる。編集長が目次案を作り、編集会議を招集。会議では目次案を議論し、原稿集めや執筆分担を決める。原稿が出てくると、分担して査読。査読依頼や結果報告はメールで行い、全委員で共有。誤字脱字はこの段階で修正。筆者への問合せは編集長が行う。査読が終ると、編集長がワードを駆使して会報の形に整形。それを分担して再度の見直しを行い、運営委員会に提出し、承認を受ける。必用な手直し、印刷、製本を行い、学習会で配付。こんな手順でお手元に届いています。(SK)	発行日	平成25(2013)年8月10日
	発行月	4回(2, 5, 8, 11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 金久保 常二 高橋 康雄